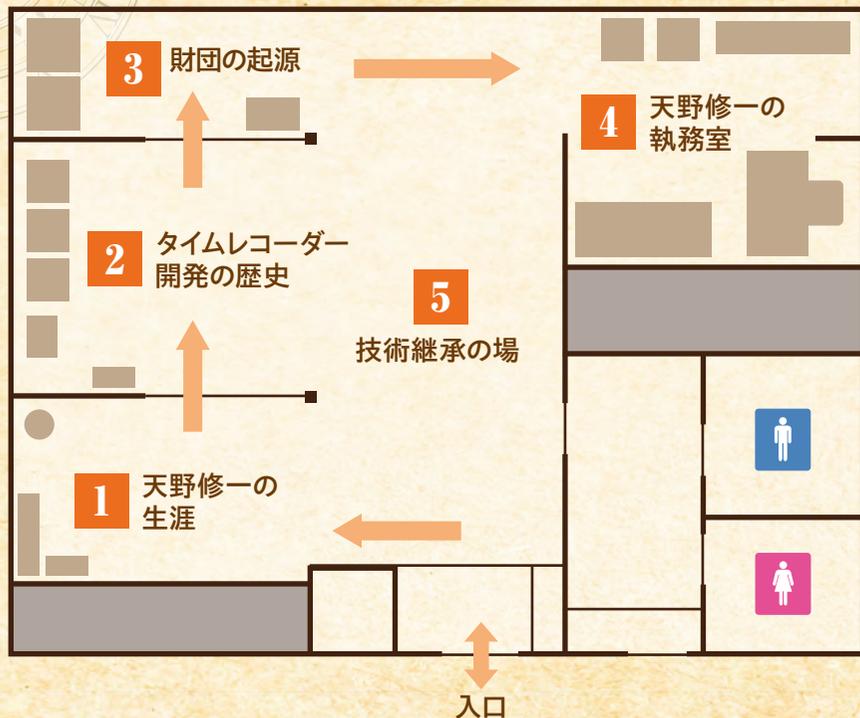


▶ 細江天野記念館 館内マップ



公益財団法人「天野工業技術研究所」のあゆみ

アマノ株式会社の創業者天野修一が、その生前 1961 年（昭和 36 年）に我が国の工業技術に関する研究開発、研究助成ならびに工業教育の奨励を目的として私財の一部を投じて当財団が設立された。そのきっかけは、時刻記録時計をはじめとする数多くの発明考案を完成させ、その事業の成功により輸入品を一切駆逐した功績が認められて 1958 年に「紫綬褒章」を受賞したことで、それまで自らが貯蓄した財を日本の工業技術の研究開発と発展のために使おうと考え、当財団の設立に至った。本人も「この一粒の種がお国のためになるならば、私は思わざる重ね重ねの幸運をつかんだことになる。」と述べている。1979 年（昭和 54 年）10 月に奥浜名湖畔の現在地に移転し今日に至っており、公益目的事業として主に試験研究事業、研究助成事業並びに奨学事業、工業教育振興事業などを行っている。

1 天野修一の生涯

天野修一は誠実に地道に努力してやり抜けば必ず幸運に恵まれるという、自らの生涯で得た信念を「鈍根運」と表現し、会社経営にも活用した。その教訓となったそれぞれの時代の写真とエピソードを紹介する。



記念館構想時パース図

2 タイムレコーダー開発の歴史

天野修一は 1931 年（昭和 6 年）に国産初のタイムレコーダーと気象用計器の製造に着手。戦後は一眼レフカメラ（アマノ 66）をはじめ、自らタイムレコーダーやタイムスタンプなどの開発に携わった。その貴重な製品の数々を展示している。



記念館構想時パース図

3 財団の起源

当財団設立時に経産省に提出した目的と趣意書、開所当時の写真、近年当財団が開発した出力測定試験装置（動力計）を展示している。また、天野修一自身が天野特殊機械の社内報に掲載した「研究昔ばなし」の全二十話をまとめて紹介する。



4 天野修一の執務室

会社創立当時、経営、設計、販売など多忙を極め、徹夜で仕事を続けた天野修一の執務室を、自身の愛用品を配置して再現。本人の映像や肉声も見聞できる。終戦時に銃器押収で訪れた米軍将校との友好的な再会のエピソードも展示している。



記念館構想時パース図

5 技術継承の場

小中学生に科学や工学への関心を高めてもらう「アマノ科学教室」の一部講座をここで開催する。天野修一の功績や考え方、展示品の数々に触れてもらい、将来わが国の工業技術発展を担う子どもたちを育てる。



記念館構想時パース図